

寺社を巡る会

活動記録書

開催日:	令和8年1月9日(金) 天候 晴	開催テーマ:	六浦の旧跡と古刹を訪ねる
開催場所:	金沢区	記入者:	松崎 寛
参加人数: 会員 24名 ビジター 1名 計 25名			
実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等): コース: 金沢八景駅(集合) ~瀬戸町やぐら跡~六浦橋~六浦歩道橋~嶺松寺跡~上行寺(本堂拝観) (解散)			
<p>今回は金沢区の六浦地区の昔の海岸線の沿ったコースをまわり、上行寺で住職のお話を聞く予定であった。しかし、急遽住職に葬儀が入ったため、上行寺では本堂への昇堂と境内の案内となった。集合は金沢八景駅。出発前の挨拶後、鎌倉道の旧道を通り、16号線を横切り、金龍院に向かう。金龍院の崖地に造られているやぐら群(瀬戸町やぐら群)がある。平成11年度の調査で、9つのやぐらと古墳時代の横穴墓が発見された。やぐらは、13世紀の鎌倉初期から造られたとされる岩盤をくりぬいた墳墓堂で、身分の高い僧侶や武士が火葬され埋葬された。</p> <p>昔は金龍院の崖地にそって海岸線であったが、今は埋立てられて家が立ち並んでいる。そこは、地震には弱い土地ではないか、とガイドさんは懸念していた。</p> <p>そこから、昔あった六浦の渡し場に行く。今の六浦交番から六浦バス停一帯にあり、その痕跡は石積みに見ることが出来る。六浦津(湊)は、鎌倉の外港として房総や江戸湾各地と交易が盛んであった。そこに海上運送に関わる問丸(船問屋兼金融業)が発達し、六浦妙法(日荷上人)等の富豪が生まれた。</p> <p>六浦川にかかる六浦橋で欄干の両端にある親柱の名残りの説明を受ける。六浦橋は、現在は国道16号線に架かっているが、もとは六浦川の上流にあたる現在の川郵便局あたりにあったのではないか、とのこと。六浦橋、六浦川についてはとりあげられることが少ないので、興味深かった。</p> <p>「千葉氏の墓と嶺松寺跡」は、瀬戸神社の神職を務めた千葉氏一族の墓域と、臨済宗建長寺派の寺院・嶺松寺の旧跡から成る登録地域文化財。嶺松寺は中世に創建され、千葉氏の菩提寺として栄えたが明治初期に廃寺となった。六浦の歴史と千葉氏の活動を示す重要遺構である。しかし、平成21年(2009)度急傾斜崩壊対策工事に伴い墓地は大幅に整理され、墓石の台座なども失われているのは、残念である。</p> <p>上行寺は日蓮宗寺院で、もとは真言宗・金勝寺と伝えられる。建長6年(1254)、日蓮が六浦に上陸した際、船中で富木常忍と法論を交わした「船中問答」を契機に日蓮宗へ改宗したとされる。南北朝期には六浦の富豪の六浦妙法(日荷上人)が土地等を寄進し、日祐上人を開山として上行寺が整えられた。称名寺住職と仁王尊を賭けた囂碁に勝ち、仁王尊二体を背負って身延山に収め日荷上人となった。三本の力ヤの木を持ち帰り上行寺、妙法寺(杉田)、自宅に植えたと伝わる。境内には日荷上人ゆかりの力ヤの古木や墓が残っている。本堂に上がり、十界略本尊を拝む。</p> <p>上行寺境内で解散し、帰途につく。</p>			
参加者の状況・意見など			
天気に恵まれ、高低差もなく歩きやすいコースであった。しかし、今日のメインの上行寺住職の話が聞けず、残念であった。無事に探訪を終えた。			
次回の予定:			
・令和8年2月13日(金)10時(受付9時30分) 金沢公会堂 多目的室 DVD鑑賞「国宝へようこそ」・第7集 西本願寺・第8集 鳥獸戲画			